



国際交流ひろば

2

月号

KAGOSHIMA INTERNATIONAL ASSOCIATION NEWS

VOL. 253/ February 2022

下記講座は新型コロナウイルス感染症の影響により内容の変更や中止をする場合があります

対象者：県内在住の青年（18歳以上概ね30歳まで）

青年のための ベトナム理解講座

ベトナム出身者も参加します！

ベトナムと鹿児島の若者同士の交流を深めよう！

第1部 ベトナムテト（旧正月）を知ろう！

第2部 鹿児島とベトナムのおすすめ紹介

（グループワークで若者POPや映えスポットなどお互いに紹介して盛り上がりよう！）

2/12 (土) 14:00～16:00

場 所：かごしま県民交流センター
東棟4階 大研修室第3

定 員：日本人の方20名（要申込）参加費無料！

《お申込・問合せ先》（公財）鹿児島県国際交流協会
Tel: 099-221-6620 Email: kia10@kiaweb.or.jp

民間国際交流活動助成金交付 上期受付開始

（※令和4年度上期（4月～9月）実施事業対象）

（公財）鹿児島県国際交流協会では、県内に在籍する民間団体が実施する国際交流・国際協力・国際理解活動に対し、旅費を除く交流に係る直接経費の2分の1以内（但し上限あり）を助成する支援事業を行っています。

申請受付期間：**1/4** (火) ～**2/28** (月)

◆営利を目的とする事業は対象となりません

詳細はこちら

◆当協会のHPで助成金交付対象となる団体や事業についてご案内しています。



《問合せ先》（公財）鹿児島県国際交流協会
Tel: 099-221-6620 Email: kia11@kiaweb.or.jp

地域がつながる公募型国際理解講座

（公財）鹿児島県国際交流協会では、県内各市町村と共催で、

その地域にお住まいの外国人の方が講師となって自国の文化紹介や日本での体験談を話していただく講座を開催します。

外国人の私が指宿市で暮らしてみたら…？

- ◆私のふるさとのななし
- ◆日本に来たきっかけ
- ◆技能実習生の経験
- ◆介護職で得たもの
- ◆おもしろびっくり指宿あれこれ
- ◆これからの挑戦
- ◆実習生へのメッセージ

2月27日 (日) 10:00～11:30

※講座後にはお茶会を予定しています

講 師：宋 暁丹（ソウ ショウダン）さん ※中国出身・元技能実習生・指宿市国際交流協力員

場 所：山川文化ホール（鹿児島県指宿市山川新生町35番地）

定 員：30名（要申込）参加費無料！ ※ご関心がある方であれば、どなたでもご参加いただけます

《お申込・問合せ先》

指宿市 市長公室 政策推進係 Tel: 0993-22-2111 Email: koshitsu@city.ibusuki.jp

「Kagoshima で暮らして」

鹿児島県の在住外国人の数は、年々増加傾向にあります。『国際交流ひろば』では、鹿児島で頑張る在住外国人の鹿児島での暮らし等についてご紹介しています。今回は、鹿児島在住6年目、台湾出身の黄敬蓉（コウケイヨウ）さんにお話をうかがいました。

台湾文化交流会 in 鹿児島 黄敬蓉さん

出身地について教えてください。

—出身は、台湾第二の都市である高雄市です。父方の郷里で、私の幼い頃には台湾の伝統的家屋である三合院形式の実家に住んでいました。



日本との最初の出会いはなんですか？

—小学生の時から兄と一緒にドラゴンボールやドラえもんといったマンガを読んでいた。それがきっかけで、日本のマンガやアニメが大好きになりました。アニメソングを日本語で歌いたくて、中学3年生頃には独学で日本語の勉強を始めました。

高校、大学、大学院では、日本語を専攻し、旅行や語学研修、留学で何度も日本を訪れました。語学研修は2~3週間ほどでしたが、日本のパンが美味すぎて帰る頃には少し太っていました（笑）

鹿児島にはどのような理由で来たんですか？

—夫の転勤で鹿児島に来ました。私は大学卒業後、台湾新幹線に関連した会社に勤めていて、そこで日本人技術者として台湾に来ていた夫と出会い、結婚しました。夫は転勤族なので、これまで熊本や富山にも行きました。6年前からは、夫の出身地である鹿児島で生活しています。

日本での子育てはどうですか？

—子育ての環境としてはとても良いと思います。ただ、大変なこともたくさんありますよ。

例えば、私は今、配偶者ビザで日本に住んでいますが、日本国籍は取っていません。そのため、夫の姓を持つ我が子と私は名字が異なるため、母親である私が子どもの預貯金口座を作ることができませんでした。「名字が違うからダメ」と言われてしまいました。

それから、私は母語である台湾語と日本語を話せますが、子どもとの会話では台湾語を使っていました。幼稚園に入るまでは、子どもたちも台湾語が上手だったのですが、幼稚園や小学校など日本語の環境で過ごす時間が長くなってくると段々台湾語を忘れてしまっているようで、それが少し残念ですね。

ご自宅にはお花がたくさん飾られていますね。

—これらの花は、仕事で使います。自宅で手作り石けんやキャンドル、フラワーアレンジメントの教室をしています。小さい頃から色々なものを手作りするのが好きで、台湾では手作り石けんの認定講師の資格を取得しました。石けんは合成洗剤よりも環境に良いですし、そういった石けんの良さも含めて皆さんに伝えたいと思っています。

新型コロナの影響で、1年くらいは何もできませんでしたが、少しずつ再開しています。教室以外にもマルシェなどで出店することもあるので、ぜひ手にとってみてください。

台湾のお正月について教えてください。

—台湾では、旧暦のお正月を「春節」としてお祝いします。今年は2月1日が春節の日にあたります。寒い時期ですが、春節祝いの時は温かい雰囲気になります。

旧正月の午前0時になると一斉に爆竹が鳴り、とても賑やかです。赤ちゃんがいる家庭にはうるさいですけどね（笑）

日本と同じようにお年玉もあります。台湾では、子どもだけでなく、長寿のお祝いの意味を込めて親など年長者へ渡したりもします。我が家では、そのお年玉を賭けて「撿紅點」という日本の花札に似たトランプゲームをします。大人も子どもも一緒にできて、とても盛り上がりやすいです。他には麻雀をする家庭もあります。

また、旧正月には色々なものを食べます。例えば、年糕（ネインカオ）というもち米から作ったお餅を食べます。台湾華語で「年々高くなる」という意味の「年高」と同じ発音で、運気が上がったり、昇進できるようにという願いが込められている縁起物なんです。ちなみに、お餅は日本のとは違って甘いお餅です。魚料理も必ず食べますね。魚は完食せずに必ず少し残します。「魚」と「余」は発音が同じであることから「魚が余る」と重なることで「ゆとりある年になるように」ということに通じるんです。

旧正月の最終日は「元宵節」と呼ばれていて、この日には「元宵（ユェンシャオ）」という餡入りのお団子を食べます。それから、提灯を作り遊びにいくという習慣があります。

日本に来てからは、旧正月をお祝いする雰囲気はあまりないので少し寂しいです。それで、最近では「台湾文化交流会 in 鹿児島」のみんなどと一緒に春節のイベントをしてお祝いをしたりしています。

「台湾文化交流会 in 鹿児島」について教えてください。

—台湾文化交流会 in 鹿児島は、鹿児島在住の台湾人や台湾に興味がある鹿児島の方々がつながれる会です。鹿児島の人に台湾のことをもっと知ってもらいたいという思いからこの会を立ち上げました。

2019年に、台湾出身で鹿児島在住40年以上の游 淑盈さんと立ち上げ、最初は2人だけでイベントの企画・運営をしていました。その後、鹿児島に住んでいる台湾人や日本人も参加して徐々に会員が増えていきました。2021年には役員会を作って運営しています。皆様のご協力に本当に感謝しています。

交流会では、台湾に関連したイベントを実施しています。例えば、台湾華語のレッスンや絵本の読み聞かせ、最近では、旧正月行事である「春聯書き」のイベント等もしました。SNSでも情報を発信しているので、多くの方に興味をもってもらえたら嬉しいです。



「春聯書き」のイベントの様子

外国の方が住みやすい鹿児島になるために、どんなことが必要だと思いますか？

—鹿児島は交通の便があまりよくありませんよね。車がないと不便な場所が多いですが、車を持っていない外国人の方もたくさんいます。ですので、バスなどの公共交通機関の表示をわかりやすくしたり、乗り方や目的地までの行き方を外国人でも簡単に調べられるものがあれば良いと思います。自宅の近くにバス停がありますが、表示がないのでどこに行くのかよくわからないんです。

それから、子供がいて思うのは、学校からのお知らせの文章が長すぎると思います。季節の挨拶や敬語は外国人にはわかりにくいので、簡単な日本語にしたら助かる外国人はたくさんいると思います。



2月には春節関連のイベントが盛りだくさん！

「台湾文化交流会 in 鹿児島」のSNSをぜひチェックしてみてください



「かごしまから見える世界」 vol.7

かつてから外国との交流が盛んだった鹿児島。鹿児島に居ながらにして世界を感じられる場所をご紹介します。
今回は、鹿児島市加治屋町にある かごしま国際交流センター をご紹介します。

【加治屋町というところ】

鹿児島市の中心部を流れる甲突川。桜並木の遊歩道があり、下流からは桜島も望める。その左岸に位置する加治屋町はかつて鹿児島城の城下町として武士たちが居住し、あの西郷隆盛ら数多くの偉人たちが輩出している。その地に2020年にオープンしたのが8階建ての「かごしま国際交流センター」。国際交流ほかの幅広い活動に利用できる交流施設(鹿児島市所有部分)と、留学生等が入居する居住施設(鹿児島県所有部分)が一体となった複合施設だ。今回はこの夢あふれる建物をご紹介します。



かごしま国際交流センター全景

【国際交流拠点として】

まずお話を聞いたのは国際交流施設。管理する鹿児島市国際交流財団によると、センターは国際交流の拠点施設として整備されたのだが、それに限らず広くいろいろな催しや企画で利用できるとのこと。また、立地上、どうしても鹿児島市民の利用が多いが、施設はだれでも気軽に使用できると利用促進を呼びかけている。2年前のオープンと同時に新型コロナウイルス感染症の打撃を受け、イベント自粛や施設利用中止などで市民の認知度が深まっていないことが大きな課題とのこと。少しでもお役に立てるよう、頑張って紙面で施設の魅力をお伝えしていきたい。

【ラウンジ、多目的ホール】

一階のエントランスを入ると、ユニークな曲線を描く長いベンチが置かれた交流ラウンジが広がる。ここではボランティアによる在住外国人への日本語勉強会なども随時行われていて、いろいろな国籍の人達が訪れるそうだ。一角には、鹿児島市の姉妹都市である米国マイアミ市の“市の鍵”や友好都市フランスのストラスブールの説明パネルなども展示されていて興味深い。

ラウンジの奥は、200人収容の大きな多目的ホールがある。音響・映像設備を完備し、講演会、交流会や映画の上映会も可能だ。イスを片付けて大きな空間を使えばパーティーなどのイベントにも使える。

【調理室とテラス】

2階に上がろう。外国や日本の食文化体験に欠かせない調理室があり、4台の調理台と調理器具・食器類が完備している。隣の研修室とつながっていて、一体的な利用が可能となっている。南側の壁は全面ガラス張り、明るく開放的な雰囲気となっており、ガラスのドアを開ければ、ここから1階屋上を利用したテラスに出られる。テラスにはテーブルやイスが置かれており、とてもいい雰囲気だ。調理室で作った異国情緒あふれる料理を持ち出して、ゆったりとくつろぎながら味わうこともできる。目の前には緑の芝生が美しい加治屋まちの杜公園が広がり、遠くには雄大な桜島も眺められる。



1階屋上テラス

また、日本のお茶やお花など伝統文化を楽しんでもらう場所として和

室も造られている。茶道や華道における立ち居振る舞いなど、日本の“和の様式美”は和室でないといわれない。この場所を使って着物の着付け体験なども楽しめるのではないだろうか。

【イベント参加も】

交流ラウンジと屋上テラスは無料で自由に使用ができ、その他研修室等は事前申込みをすることで誰でも利用(有料)することができる。また、センターが主催する外国人講師による料理講座や災害時通訳ボランティア研修会、新入外国人の歓迎会など、多彩な講座やイベントもこのセンターを会場にして行われている。センターとしては、施設の利用促進はもちろんのこと、これらのイベントを通じて、日本人と外国人が一緒に楽しみ、それぞれの文化や価値観に理解と敬意を払うことができるような関係づくりに寄与していきたいという。

開館時間は、朝9時から夜9時まで(日曜日、休日は夕方5時まで)。仕事帰りにぶらりと立ち寄ってもいい。原則、毎週月曜日と年末年始は休館となっている。

【留学生の居住空間】

さて、この建物のもう一つの機能である、留学生等の居住施設を次に見てみよう。

県内には、鹿児島大学を中心に、500人弱の留学生たちが住んでいる(令和3年5月現在)が、安定した学業を続ける基盤となる住居の確保は、どの学生にとっても最重要課題だ。そのため、ここでは家族向けも含めて66室の居住空間を整備し、来日初年度の留学生を対象に、鹿児島での生活になじんでもらうために1年単位の契約で入居させる施設として開設した。管理する鹿児島国際交流促進センターによると、コロナ禍の現状では留学生の来日もなかなか思うようにいかないが、家族滞在



居住施設の共有LDK

も含めて徐々に入居は進んでいるとのこと。管理スタッフたちはそれぞれ豊富な国際経験を有しており、滞在する留学生たちも安心・快適な生活を送っているようだ。

この施設のもう一つの特徴は日本人学生もここに入居していること。レジデンスアシスタント

(居住支援者:RA)と呼ばれる学生たちで、現在8人が留学生たちと一緒に毎日を過ごし、施設利用やゴミ出しルール、困りごと相談などの生活サポートをしている。その中で、留学生との日々のやり取りや“同じ釜の飯”の交流を通じて視野や関心が世界に広がり、また、日本と異なる文化の生活を目の当たりにすることで、彼ら彼女らは大きく変わっていくという。

【加治屋町というところ】

京セラ(株)名誉会長の稲盛和夫氏からの寄附金をもとにしたこの「かごしま国際交流センター」が、加治屋町に建設されたことも何かの縁であるかもしれない。センターでは、地元加治屋町の方々や入居留学生との交流会を実施し、また今後、地域の学校との交流なども計画している。近代日本の一大転換点となった明治維新の立役者たちを輩出したこの地に建つ国際交流の拠点施設から、将来、日本、そして世界を動かす人材が生まれ出てくることを期待したい。

取材協力 公益財団法人鹿児島市国際交流財団
鹿児島国際交流促進センター

1965年にラオスへの派遣から始まり、これまでに5万人を超える JICA 海外協力隊員が途上国へ派遣されてきました。そんな協力隊員の帰国後に焦点を当てたインタビュー記事「エピソード0 (ゼロ)」をご存じでしょうか？

隊員出身者は誰もが持っている、これまでの価値観が変化し、生き方さえも変えてしまう強烈な経験、「エピソード0」。

- 「言葉を超えて心が通じた瞬間」
- 「からだ中に電撃が流れるような感動」
- 「失敗しても挑戦し続ける姿勢」
- 「絶望の中で手を差し伸べてくれた友の存在」
- 「涙をこらえながら、笑顔で送り出してくれた家族」

それぞれのマイエピソード0を手に、帰国後も挑戦を続ける隊員 OB の姿が描かれています。ぜひ、ご覧ください！



エピソード0
QRコード



JICA デスク鹿児島 担当: 仮屋

TEL: 099-221-6624 (公財)鹿児島県国際交流協会内



鹿児島市国際交流財団からのお知らせ

「国際協力体験ワークショップ」

～カードゲームでSDGsとJICAの取組みを学ぼう～

2/27 (日) 13:30～16:00

対象: 中学生・高校生・短大・大学・専門学生
定員: 20名《超えたら抽選》※参加費無料!
場所: かごしま国際交流センター

【申込み・お問合せ先】(公財)鹿児島市国際交流財団
Tel: 099-226-5931 Email: kokusai@kiex.jp

県内団体の国際交流事業紹介

鹿児島県からのお知らせ

「ベトナム・テト(旧正月)フェスタ2022 in 鹿児島」

ベトナム観光写真展やベトナム食品の販売等を行います
鹿児島にいながらベトナムを感じられる
この機会をお見逃しなく!

2/6 (日) 11:00～

場所: イオンモール鹿児島 1階「空の広場」

【お問合せ先】

鹿児島・ベトナム交流促進協議会 Tel: 099-286-3080
(事務局: 県外国人材受入活躍支援課内)

がいこくじん そうごう そうだん まどぐち
外国人総合相談窓口

かごしま す がいこくじん かた そうだんまどぐち
鹿児島にお住まいの外国人の方のための相談窓口で
す。生活、在留資格、労働、医療、福祉などで困ったこ
とがありましたら、お気軽にご相談ください。

たいおうげんご にほんご えいご ちゅうごくご かんこくご
対応言語: 日本語/英語/中国語/韓国語/ベトナム語/
タガログ語/インドネシア語/ネパール語/クメール語/
タイ語/ミャンマー語/ポルトガル語/スペイン語/マレ
ー語/フランス語/ロシア語/ドイツ語/イタリア語/モン
ゴル語/シンハラ語/ヒンディー語/ベンガル語

かごしまけんこくさいこうりゅうきょうかい
鹿児島県国際交流協会内

TEL: 070-7662-4541
E-mail: kiasoudan@gmail.com



Facebook



本誌・掲載内容に関する問合せ・申込み先

公益財団法人鹿児島県国際交流協会
(火曜～日曜 9:00～17:00)

〒892-0816 鹿児島市山下町14-50
かごしま県民交流センター1階
Tel: 099-221-6620 Fax: 099-221-6643
URL: <https://www.kiaweb.or.jp/>
Email: kia@kiaweb.or.jp
Facebook: <https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc>

「国際交流ひろば」は、ホームページにも毎月掲載しています。ご自由にダウンロードしてください。